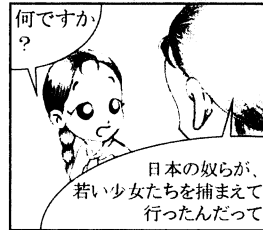
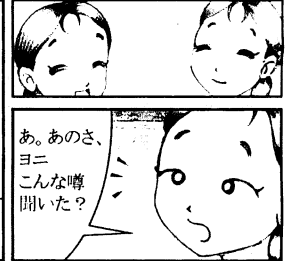
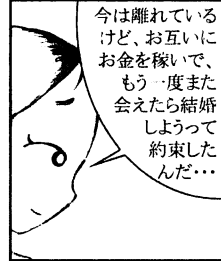
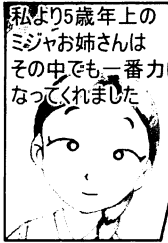
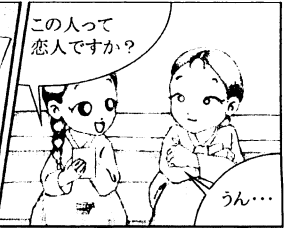
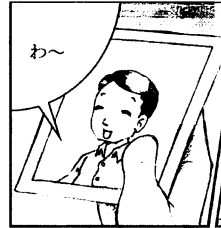


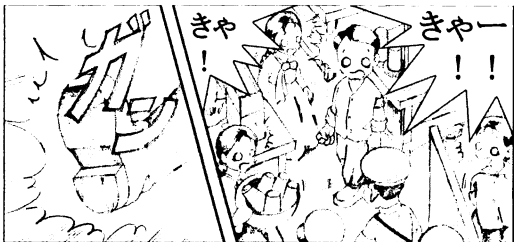
もう一度生まれたら、花に [第2回]

作・権テソン、翻訳・村山一兵



①

②



③

■この作品は、<http://www.overknown.com> で読むことができます

■ナムムの家歴史研究員・村山一兵さんによると、9月13日に米下院国際関係委員会は、第2次大戦当時の日本の従軍慰安婦動員に関連する決議案を上程、満場一致で採択したそうです。

決議案は日本政府に対して、「▲従軍慰安婦動員の事実を明らかに認めて歴史的責任を受け入れること ▲反人間的で惨たらしいこの犯罪に対して、現在と未来の世代に教育すること ▲慰安婦動員を否定するどんな主張に対しても、公開的に強く繰り返し反駁すること ▲慰安婦たちに対する追加的な措置を決める時、国連の女性暴力特別調査官及びアムネスティのような国際人権団体の勧告を真剣に考慮すること」などを要求しました。

「連合ニュース」によると、決議案を主導したエバンス議員は「今度の決議案は日本政府に慰安婦問題について謝ることを再度促したというところに重要性がある」と述べ、解説では「今回の決議案は強制的な拘束力があるものではないが、第2次世界大戦当時の慰安婦強制動員など日本の蛮行に対して、アメリカ社会はもちろん全世界に対して考えさせ、今後の慰安婦賠償問題などに対して日本政府を圧迫する効果があることが予想される」と述べられています。